

2023年4月3日
Peach Aviation 株式会社

関西エリアで初の試み！ ターミナル2におけるGSE遠隔操作の実証実験を開始！ ～遠隔操作導入で、作業員不足への対応および脱炭素への貢献を目指します～

- ・ 実証実験期間: 4月3日(月)～4月13日(木)
- ・ パナソニックHDの「X-Area Remote」を用いてオフィスから車両を遠隔操作
- ・ EV車両の導入により脱炭素化を実現
- ・ 将来的には受託手荷物搬送時間の短縮による顧客サービス充実が目標

Peach Aviation 株式会社(代表取締役 CEO:大橋 一成)は、本日より、パナソニックホールディングス株式会社(代表取締役 社長執行役員グループ CEO:楠見 雄規、以下「パナソニックHD」)、長瀬産業株式会社(代表取締役社長:上島 宏之、以下「長瀬産業」)、関西エアポート株式会社(代表取締役社長 CEO:山谷 佳之)の4社が協力し、GSEの遠隔操作に関する実証実験を開始します。



今回の実証実験は関西エリアの空港では初となる、遠隔操作によるランプエリア内での車両走行の実用性を証明するための実験的な取り組みです。オペレーターが、エアロプラザ(関西国際空港)にあるPeach オフィスから、パナソニックHDが開発した遠隔管制システム「X-Area Remote」を用いて牽引車「TractEasy(長瀬産業所有)」を遠隔で操作し、GSE*1 置場から飛行機の側までCOMBO*2を運搬します。将来的には、受託手荷物の搬送に遠隔操作車両を使用することが目標で、導入により、コロナ禍の影響や人口減少に伴う地上作業の人員不足問題や、受託手荷物の搬送および返却までの待ち時間の短縮による顧客サービスの充実を図ります。また、EV車両を導入することでPeachのオペレーションにおける脱炭素化を実現します。

*1 Ground Support Equipment の略で、航空機地上支援機材の総称。牽引車もGSEの中の一つ。

*2 航空機への電力及び空調の両方を同時に供給が行える非自走式車両。

Peachは、今後の国内外への旅行需要の本格的な回復、そして2025年の大阪・関西万博開催に向けての旅客増加に対応するべく、グループ会社や委託先、取引先などのさまざまなパートナーと連携・協力しながら、あらゆる業務において無駄をなくし環境負荷を低減する仕組みづくりに取り組んでいきます。

<遠隔操作車両>



予めシステムに取り込まれた走行区域の情報を基に、遠隔操作中でも車両外部のLIDARセンサーを用いて安全停止する装置を備えています。



<遠隔操作機器>



画面に映し出される車両周辺の映像やAIを用いた物体検知情報を確認しながら、ハンドルとペダルを用いて、車両を安全に操作できます。

<遠隔管制システム「X-Area Remote」>

エアロプラザのPeachオフィス

ターミナル2のランプエリア



公衆モバイル回線
(4G/5G)



パナソニックHDが開発した遠隔管制システム「X-Area Remote」を用いて、Peachのエアロプラザオフィスに設置されている端末から、公衆モバイル回線(4G/5G)を使用しターミナル2のランプエリア内の走行をコントロールします。

パナソニック HD のモビリティサービスプラットフォーム「X-Area」

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/mobility/x-area.html>

* X-Area(クロスエリア)はパナソニック ホールディングス株式会社の登録商標です。

<車両走行エリア>

第2ターミナル側車両通行帯及びエプロン内(黄色及び青色で示すエリア)



[Peach について \(www.flypeach.com\)](http://www.flypeach.com)

Peach は 2012 年 3 月 1 日に日本初の LCC として運航を開始しました。現在、新千歳、仙台、成田、中部、関西、福岡、那覇の 7 カ所を拠点空港とし、国内線 28 路線、国際線 19 路線を運航しています。今後も Peach は、より気軽な空の移動手段として人々の往來を支え、地域活性化に貢献するとともに、お客さまに喜んでいただける、さらには愛していただけのエアラインを目指してまいります。

。

Peach!!周年